

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC News No. 85を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■ [随想](#)

◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩（その1）

—初めてのインドにびっくりすることばかり—

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇PVC News No. 85を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

6月14日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.85](#)を発行しました。今号の「トップニュース」は、PVC Design Award2013 がスタートし、三回目にかける思いを紹介しています。

No. 85号の構成は以下の通りです。

## ○トップニュース

デザイナー、参戦せよ！「PVC Design Award 2013」開幕

—3回目を迎えた「ものづくりコンテスト」。

テーマは「ソフトPVCで日本の力をためす」

## ○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

環境活動の究極は「人間づくり」にあり

—多摩川を拠点に、生き物の「いのち」を考える子どもたちを育成

NPO 法人 おさかなポストの会 代表 山崎 充哲 氏

## ○リサイクルの現場から

1. リサイクルを商う フジ化成(株)の35年

—塩ビ端材を買い取り、再生原料として販売。守り続けたビジネスモデル

2. 大同樹脂(株)のPTP リサイクル事業

—工場端材を塩ビとアルミに分離。製薬会社の期待を担い、本格操業へ

## ○ものづくりの現場から

廃棄物をデザインする。

—捨てられる素材をデザインのでアップサイクル。

塩ビ床材もオシャレなバッグに

## ○海外事例紹介

インドで日本の塩ビ管市場動向を紹介（塩化ビニル管・継手協会）

—「Vinyl India-2013」開く（4月、ムンバイ）。

ヒートアップするインドの塩ビ事情

## ○広報日より

- ・「集まれ塩ビ管スピーカー 関東オフ会 2013」の会場から
- ・「下水道展 2013 東京」(7月30日～8月2日)に出展予定(塩化ビニル管・継手協会)
- ・ [「PVC Design Award」HP](#) リニューアル

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「シリーズインタビュー/さきがけびとにきく」は、『おさかなポストの会』の山崎さんに登場頂きました。山崎さんとの出会いは私たちが毎年12月に開催しているエコプロダクツ展。ブースに使用していた塩ビ管を、多摩川の鮎を外来魚から守るための漁礁に使いたいとブースに来て頂いたのがきっかけです。今回のPVCニュースでは、山崎さんが取り組んでいる多摩川の自然を守る活動や小学校での環境授業、水辺での安全指導など、そして『おさかなポストの会』の活動について語って頂きました。



エコプロ展 VEC ブースと  
水中に設置された漁礁

「リサイクルの現場から」は、今号は二本立てとしました。

一つ目は、長年軟質塩ビのリサイクルに取り組んでいるフジ化成(株)。農業用ビニールハウスや工場から出る軟質塩ビ端材を回収しリサイクルすることを長年やってこられました。その苦勞や実績を紹介しました。

二つ目は、錠剤薬パッケージ (PTP) のリサイクルに取り組んでいる大同樹脂(株)。製薬会社から出る PTP の工場端材リサイクル技術を、試行錯誤を重ね確立し軌道に乗せるまでの軌跡を紹介。

「ものづくりの現場から」は、テレビでも紹介され注目を集めている、塩ビの床材や消防服などの廃材を再利用し、新たな製品としてかばんや財布に生まれ変わらせる『アップサイクル』をしている MODECO。代表の水野さんはまだ20代。「捨てられてしまったらゴミになるものを、手を加えるだけでまた世の中に出せば地球にも優しくなる」などと熱意を語ってくれました。

『PVCニュース』は [JPECのホームページ](#) から、最新号、バックナンバー共にご覧頂けます。

ご購読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

## ■ 随想

### ◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩 (その1)

ー初めてのインドにびっくりすることばかりー

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

インドの西海岸にあるインド第二の都市ムンバイ(旧ボンベイ)で4月11日・12日 Vinyl India-2013 という塩ビに関する会議があり、そこで、日本の塩ビ管の状況を伝えてきたことは、本メルマガの [トピックスで紹介](#) させていただきました。今回は、そのときの体験やエピソードを交え、Vinyl India-2013 を振り返ってみたいと思います。

インドというと、私を含め「人口は膨れ上がってきている」「最近経済が活況を呈しており、日本も中国からインド等に投資をシフトしている」と共に、「暑いところ」「治安は不安」「衛生面も不安」・・・といったイメージを持つ方もいるのではないのでしょうか。

出発前のプレゼンテーションの準備と共に、インドのイメージをもとに対応をそれなりに考えながら、4月9日に成田11時20分発ムンバイ直行便でいざ出発です。成田からムンバイまでは意外と時間

がかかり、所要時間11時間です。さらに1時間以上の遅れとなりました。着陸が近づくにつれ真っ暗な中に街並みの灯りが大きくなってきました。いよいよ初めてのインド・ムンバイに現地時刻19時30分（時差3時間30分遅れ）到着です。

もう発着便もないのか人影もまばらな中で、褐色系の肌色の地上係員がまず目に入ってきました。インドにやって来た！と実感した瞬間です。のんびりしたペース（そう見えた）でインド人が入国の手続きをしています。おまけに何をチェックしているのか時間をかけての確認です。ようやく入国審査を終えて建物の外に出た途端、30℃を越える熱風が襲ってきました。東京とは有に15℃以上の気温差があり、一気に真夏です。

まず空港に着いてからの一番の心配は、事前にホテルに頼んでおいた「待ち人」と出口で約束どおり会えるかです。普段は海外の空港でも、適当にタクシーを拾って勝手に行くのですが、「インドでは流しのタクシーは、寄り道をしながら行くこともあるのでやめておくこと」との事前情報もあり、ホテルに出迎えを頼んでおきました。日本では「出迎える人名を書いた看板を持って待つ」のが普通ですが、インドでは別の運転手が「それを見て客引きのように同じ看板を掲げる」ので、「ホテルの名前だけを書いて待っている」とのことです。「Grand Hyatt」のホテル名の看板を見つけた時は、「ヤッター」という感じで第一関門突破でした。

運転手は、ことのほか親切で、まず「おしぼり」が出てきて、それから「冷房は丁度いいか？」「インドははじめてか？」と問いかけてきて、あまりの親切に少々当惑しました。ホテルは空港からは道が空いておれば20分ほどで着くところにあり、ムンバイの観光地まで行く距離の半分弱のところにあります。ところが、もう夜も遅いのに、道は渋滞で、車線は最初から引いてなく、3輪の軽自動車(ホロ付き)あり、バイクあり、割り込み自由・クラクションが鳴り続け、道路を横切る人多々あり、そして道端には人が何をしているのか溢れかえっており、活気というよりバタバタといったところです。

そんな無法地帯のような道路を運転手は巧みなハンドルさばきで、思ったより早くホテル到着です・・・。ホテルの玄関に自動車横づけと思いきや、手前にホテルのゲートがあり、そこで降されてしまいました。しかも、なんとホテルに入る前に空港で行うように、人は磁気探知ゲートを通り、バックも中身確認の機械をくぐらせます。当方ホテル前では初めての経験で、またまたびっくりです。どうもインドは高級ホテルがテロの標的になるとのことでの対応のようです。



Vinyl India-2013の様子



ホテル入り口の手荷物検査風景  
(ホテル内側から見たところ)

ホテルに着いて一安心ではなく、部屋に入って寝るまでに、また事前情報を基に順守事項があります。絶対、水道水を飲まないことです。それくらい大したことない・・・と思われませんが、歯を磨く時は水道水でうがいをせず、部屋に置いてあるペットボトルの水を使います。もし水道水でうがいをしたらどうなるか？を試す冒険は、まだ会議を控えている身ではもってのほかです。

(つづく)

次回は、(その2) -ホテル周辺とインド人の気質-です。

## ■ 編集後記

最近、塩ビ製品のリサイクル現場を見学するので、関東周辺の田舎によく出かけています。駅のホーム等で携帯電話やゲーム器を操作しながら歩行している人を都内では多く見かけますが、人口数万人程度の駅のホームでも、主に高校生を中心に同じ様な光景を目にします。最近の報道では、このような行為に対して法的な規制が必要なのではないかとの議論がなされていますが、分かる様な気がしているのは私だけでしょうか。(KT)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)